



from HA NOI



ハノイ市内の街角の風景

ベトナム経済の光と影

ベトナムは過去 10 年間約 7 % の高成長を記録。東南アジアでは随一のパフォーマンスを示していることから、新たなアジアの奇跡を実現するのではないかとみられています。

好調なベトナム経済を支えているのは内需。ベトナム国民の平均年齢は 27 歳弱と非常に若く、「アン・チョーイ」と呼ばれる 80 年代～90 年代生まれの新世代が活発な消費文化を支えています。ちなみにアンとは食べること、チョーイとは遊ぶことを意味しています。

1946 年から始まった第一次インドシナ戦争、米軍との戦い、中越戦争と、ベトナムは独立を勝ち取るために多くの命を失いました。ベトナムの人口構造を見ると、戦争の影響もあって高齢者が少ない一方、若年者が急増するきれいなピラミッド型の形状をしています。労働が可能となる人口は毎年 2 桁増加を続け、農村部から都市部への人口移動が続くと共に核家族化が進みます。ベトナムは今、日本の昭和 30 年代に起きたのと同じ現象が多数みられます。

しかし日本と決定的に違うことがあります。それは国民の自国通貨に対する信認が非常に低いことです。ベトナム国民は幾多の戦火をくぐり抜けた体験もあるので、お金がたまると換金性の高い現物の資産を買う傾向があります。特に米ドルの国内流通量は 4 割を超えていると言われており、現物の「金」は第三の通貨とも呼ばれています。ベトナムの国内貯蓄は国内の産業振興や資金偏在をならす役割を担っているとは言えない状態です。

日本銀行は日越両国政府の要請を受けて、2008 年からベトナム国家銀行（中央銀行）に対する技術支援を開始しています。海外からの直接投資や公的援助、越僑送金（海外在住のベトナム人からの本国への送金）など外部資金に過度に依存する今のベトナムの経済構造は脆弱です。ベトナム経済が持続的で安定的な成長を確保するには、国内貯蓄と投資を結び付ける基礎的な金融インフラの整備が非常に重要です。

（ベトナム国家銀行＜State Bank of Vietnam＞ハノイ）



ベトナム国家銀行（正面）